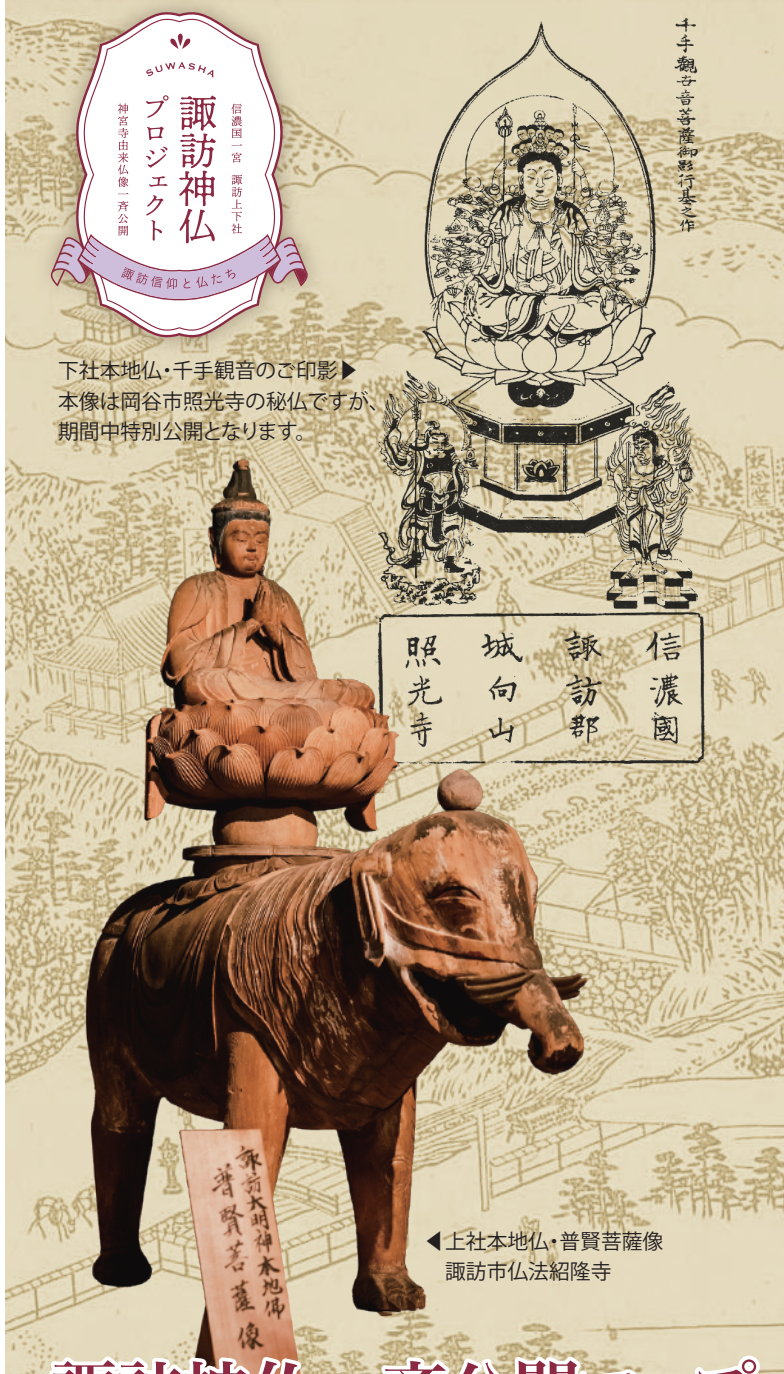
諏訪神仏一斉公開マップ

公開期間：2022年10月1日（土）～11月27日（日）

※公開場所によって休業日や公開時間が異なります。
最新情報をホームページでご確認ください →［検索］諏訪神仏プロジェクト



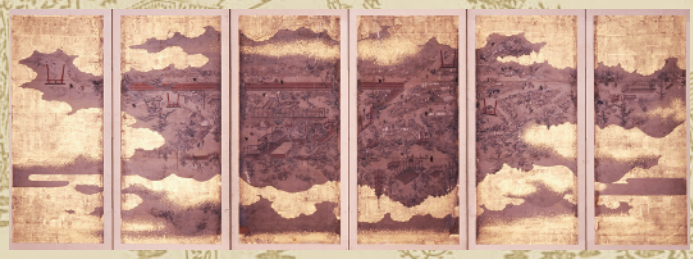
◀上社本地仏・普賢菩薩像
諏訪市仏法紹隆寺

下社本地仏・千手観音のご印影▶
本像は岡谷市照光寺の秘仏ですが、
期間中特別公開となります。

SUWASHA
諏訪神仏プロジェクト
信濃国一宮 諏訪上下社
神宮寺由来仏像一斉公開
諏訪信仰と仏たち

仏様がおわした諏訪神社

現在の諏訪大社は、明治に入るまで社域と同等以上の広さの寺域を伴っていました。当時の模様は数々の絵図や版画に残されており、中でも江戸時代前期の「諏訪社遊楽図屏風」（長野県宝／諏訪市博物館寄託）は、上社・下社とその周辺をそれぞれ一隻に描いた立派な資料です。当時の社殿や寺院から、門前の宿並み、参詣に訪れる人々のようすまで、克明に見て取ることができます。



▲下社遊楽図：左二枚の屏風には春宮と観照寺、慈雲寺が、下諏訪宿を挟んで右三枚には秋宮と三精寺、三重塔のある下社神宮寺が描かれています。下社神宮寺は真言宗海岸孤絶山と号し、千手観音を本地仏としていました。秋宮の南側、諏訪湖に向けて広大な寺域があり、中山道と甲州街道の交わる地でもあったため多くの参詣者を集めましたが、現在、その痕跡はほとんど残っていません。

▲上社遊楽図：上社本宮の神宮寺は、鎌倉時代に建てられた五重塔を伴う大寺院で、真言宗普賢神変山と号しました。中心となっていたのは左から三番目の屏風に見える五重塔と、その手前の普賢堂で、普賢堂には本地仏がまつられていました。四番目の屏風の幣拝殿の奥には経文を収めた「お鉄塔」という石塔がまつられ、神宮と同様に社僧も毎日のお勤めをしていたのです。

諏訪社の美仏カタログ


諏訪市博物館（萬福寺より寄託）五智如来像
（上社五重塔／諏訪市指定文化財）


照光寺 不動明王立像（信玄不動）（下社千手堂）


照光寺 胎蔵界大日如来坐像（下社三重塔／長野県宝）

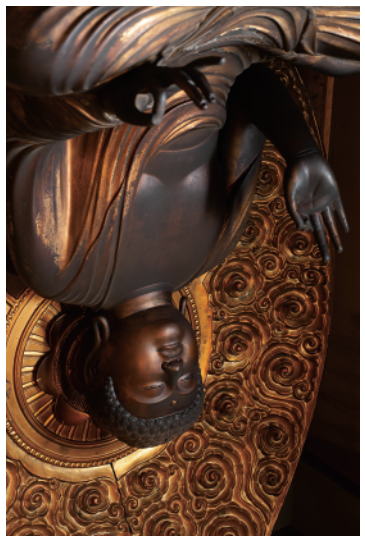

真秀寺 不動明王及び二童子坐像
（上社如法院／岡谷市指定文化財）


長円寺 薬師如来立像（上社薬師堂本尊
／茅野市指定文化財）


善光寺 不動明王立像（上社普賢堂／諏訪市指定文化財）

仏法紹隆寺 普賢菩薩騎象像
（上社如法院本尊／長野県宝）


平福寺 十一面観音菩薩立像（秋宮三精寺
方丈本尊／岡谷市指定文化財）


平福寺 阿弥陀如来坐像
（秋宮三精寺阿弥陀堂本尊／長野県宝）

神仏習合の千年と神仏分離

国内最古の神社のひとつとされる諏訪大社。そこに起こった信仰は、諏訪の地に根づき、全国に広まっています。

その信仰は、時代のなかで形を変えながら浸透していきました。特に飛鳥時代に伝来した仏教は、日本にもともと存在していた自然信仰と結びついた神道にも影響を与えました。日本列島全体に広がる過程で、古代から中世にかけて神さまと仏さまを一体のものとして扱う「神仏習合」の信仰が確立。諏訪神社でも上社・下社にはそれぞれの神宮寺をはじめ、多くの寺院や僧房が立ち並ぶようになりました。

しかし、明治時代を迎えたとき、一体となっていた神仏の信仰は別々の道を歩むことになります。新政府の「神仏判然令」が引き金となり、各地で「廃仏毀釈」運動へと発展。諏訪でも鎌倉時代の五重塔をはじめ、貴重なお堂のほとんどが破却され、多くの仏像は人々の手によって諏訪地域の各寺院に移されました。1000年に及ぶ文化の礎が、わずか150年前に激変を遂げたのです。

このプロジェクトは、諏訪の地で育まれた神さまと仏さまが共存したかつての姿を振り返るものです。廃仏毀釈の難を逃れ、周辺寺院で大切に祀られてきた諏訪大社ゆかりの仏像や仏具を一斉に公開。これまでなかなか調査が進められていなかったものや、秘仏とされるものも含め、皆さまにご覧いただき、かつては当たり前だった神さまと仏さまが同居する世界を振り返ります。

諏訪大社について

P完備 朱四社個別

全国に一万社以上といわれる諏訪神社の総本社で、日本最古の神社の一つとされています。上社本宮・前宮、下社春宮・秋宮の四座からなり、各社殿の四隅に計十六本の御柱を曳き立てる「式年造営御柱大祭」で全国に知られます。御祭神は建御名方神、八坂刀売神。

1 上社本宮：諏訪市中洲宮山1　2 上社前宮：茅野市宮川2030
3 下社秋宮：下諏訪町5828　4 下社春宮：下諏訪町193

※長野県 地域発 元気づくり支援金により（一社）大昔調査会制作

参加寺社・施設・仏像等一覧

施設名	公開仏像名など	旧所蔵
①昌福寺	不動明王立像	上社如法院
②真福寺	（観音堂本尊如来形立像）	（協力公開）
③照光寺	千手観音菩薩立像及び両脇侍立像、不動明王立像及び二童子立像、胎蔵界大日如来坐像、不動明王立像（信玄不動）、仁王像	下社神宮寺千手堂、大坊、三重塔、仁王門
④真秀寺	不動明王坐像、澄観坐像	上社如法院
	本坊遺構	下社神宮寺
⑤平福寺	阿弥陀如来坐像、十一面観音菩薩立像、不動明王立像、地蔵菩薩立像（日限地蔵尊）	秋宮三精寺
	日光・月光菩薩立像、十二神将像、不動明王立像	春宮観照寺
⑥慈雲寺	（千手観音坐像：非公開）	慈雲寺
⑦温泉寺	石造宝塔（お鉄塔／上社本宮旧御神体）	上社本宮
⑧高國寺	仁王像、仁王門	上社上り仁王門
⑨佛法紹隆寺	普賢菩薩騎象像（諏訪大明神本地仏）、文殊菩薩騎獅像	上社普賢堂
	普賢菩薩騎象像、弘法大師坐像（清涼大師）	上社如法院
	大日如来坐像	上社蓮池院
	虚空蔵菩薩坐像（下社）、山門（上社）	上下神宮寺
⑩小泉寺	本坊表門	下社神宮寺
⑪善光寺	不動明王立像、毘沙門天立像、仁王像（下り仁王門）	上社普賢堂
⑫法華寺	観音菩薩立像（伝観音堂本尊）	上社観音堂
⑬惣持院	懸仏　（立川流彫刻多数協力公開）	伝下社神宮寺
⑭真徳寺	阿弥陀如来坐像（阿弥陀堂本尊）、如来形立像	（協力公開）
⑮長円寺	薬師如来立像及び両脇侍立像	上社薬師堂
⑯虚空蔵堂	（虚空蔵菩薩立像）	（協力公開）
⑰高榮寺	聖観音菩薩坐像、弘法大師坐像、興教大師坐像、地蔵菩薩坐像	上社神宮寺
⑱長泉寺	（法隆寺兼務住職・御朱印授与）	（協力）
⑲富士見町乙事公民館（法隆寺）	大日如来坐像、伝釈迦如来坐像、不動明王坐像、不動明王立像、毘沙門天立像、興教大師坐像、童子立像	上社如法院
諏訪市博物館	五智如来坐像（萬福寺）（他に諏訪社遊楽図屏風：寄託）	上社五重塔
諏訪湖博物館・赤彦記念館	金銅薬師如来立像（春宮本地仏／宝光院蔵）	春宮観照寺
	（以下、下社最後の住職末裔神山家什宝）十一面観音立像及び両脇侍立像、東照大権現坐像	下社神宮寺
八劔神社	女神形摩利支天坐像、弁財天坐像	（協力公開）
手長神社	（高島藩諏訪氏崇敬社）	
諏訪大社上社 本宮（普賢堂・五重塔模型、神宮寺旧跡、宝物殿）・前宮		
諏訪大社下社 秋宮（神宮寺旧跡、宝物殿）・春宮（観照寺旧跡）		

※公開地や公開内容は変わる場合があります。

諏訪神仏一斉公開マップ

① 昌福寺　岡谷市川岸東4丁目16-5

『諏方大明神絵詞』を著した小坂（諏訪）円忠の小坂氏に縁が深い古寺です。上社神宮寺由来の個性的な不動明王像、同画像を拝観できます。他に、寺宝として武田勝頼の安堵状（非公開）を蔵することでも知られています。勝頼の母、諏訪御料人の供養塔がある小坂観音院とも深い関係があります。



P 20 朱

② 真福寺　岡谷市川岸上2丁目6-6

天正3年の下社千手堂再建の際、棟札に寺名がみられます。下社神宮寺系の寺院と住職の行き来も記録されています。
本尊の阿弥陀如来は室町時代かともいわれる端正な坐像。観音堂の本尊はなぜか如来形の個性的な像で、木食仏のような民間信仰的仏像として貴重です。



P 20 朱

③ 照光寺　岡谷市本町2丁目6-43

下社神宮寺の末寺でしたが、創建の古さでは神宮寺に勝る可能性も秘めた古刹です。下社本地千手観音、三重塔本尊大日如来、ちょっとびっくりな「信玄不動」ほか、下社由来の仏像多数。美しく繊細な千手観音像は、本来60年に一度の御開帳。今回、特別公開です。



P 90 朱

④ 真秀寺　岡谷市長地小萩1丁目-19-9

下社摂社小萩神社の別当寺でした。
上社如法院由来の不動明王は、仏師ではなく社殿建築で高名な立川流三代富種の手になる大迫力の巨像です。
ほかに下社由来の十六善神図、上社由来の涅槃図なども必見。本堂内部も下社本坊を移築したものです。



P 10 朱

⑤ 平福寺　岡谷市長地柴宮3丁目3-22

下社方の名門寺院で、秋宮三精寺、春宮観照寺から多くの仏像を引き継ぎました。中でも三精寺阿弥陀如来は等身大の堂々たる坐像で、慶派黄金期の傑作です。
地元では三精寺由来の地蔵菩薩「お日限（ひぎり）さま」で親しまれており、御開帳の縁日には門前が賑わいます。



P 20 朱

⑥ 慈雲寺　下諏訪町東町中606

鎌倉時代、下社大祝金刺氏が名僧一山一寧を招いて創建した県内最古級の禅宗寺院。門前石段脇の修験道場、敬愛社宝光院が春宮本地薬師如来像を引き取っています（諏訪湖博物館で公開）。苔むした参道から望む山門、枯山水や池泉庭園など、境内の美しさは特筆ものです。



P 50 朱

⑤ 手長神社　諏訪市上諏訪9556

高島藩諏訪氏が崇敬した梶の葉紋のお社。拝殿の立川流の手になる龍の彫り物が見事です。御柱祭は、提灯の明かりで長い石段を引き上げる、他に類をみない壮麗なものです。

P 10 朱

⑥ 八劔神社　諏訪市小和田13-18

諏訪湖の「御渡」拝観で有名。来歴不明の仏像２体があります。摩利支天像は六臂・女神形の非常に珍しいもの。隣接する甲立寺は八劔神社の元別当寺で、今も大事なお祭りにはそれぞれの宮司、住職が列席して神仏習合の風を偲ばせます。

P 8 朱

⑦ 温泉寺　諏訪市湯の脇1丁目21-1

歴代諏訪藩主の廟所（国指定史跡）を守る高島藩の菩提寺で、本堂は高島城の能舞台を移築したものです。多宝塔の中には、神仏習合時代の上社本宮御神体、石造の「お鉄塔」が安置されています。
御柱年のみの御開帳と定められており、今回の拝観も貴重な機会となります。



P 65 朱

⑧ 高國寺　諏訪市諏訪2丁目16-24

上社「上り仁王門」（旧材は一部のみ）と仁王像を今に伝えます。参加寺院唯一の日蓮宗で、神仏分離の混乱の中、下取りによって保全された一例です。
神宮寺と直接関係はありませんが、高島三代藩主忠晴の母、永高院によって再興された由緒正しいお寺です。



P 15 朱

諏訪湖博物館・赤彦記念館

下諏訪町西高木10616-111　旧春宮薬師堂本尊を中心に、下社神宮寺をテーマに企画展を開催。照光寺の本地仏によく似た厨子入りの小さな観音三尊像や東照大権現像など、下社神宮寺最後の住職の末裔である神山家に伝わった什宝を初公開。

P 30

諏訪市博物館　諏訪市中洲171-2

神仏習合時代の諏訪上下社境内を生き生きと描いた『遊楽図屏風』をメインに、企画展を開催。また常設展でも、上社五重塔の本尊だった五智如来像（萬福寺蔵）や上社神宮寺のジオラマなど、魅力的な展示を見ることができます。

P 60

⑨ 佛法紹隆寺　諏訪市四賀桑原4373

上社ともっとも縁が深く、上社本地仏普賢菩薩像以下、非常に多くの仏像、仏具等々を引き取りました。
莫大な数の古文書も、諏訪の仏教史を知る上で大変貴重なものです。また、神宮寺仏ではありませんが、運慶工房の作とみられる不動明王像の名作も公開されます。



P 30 朱

⑩ 小泉寺　諏訪市中洲中金子3320-2

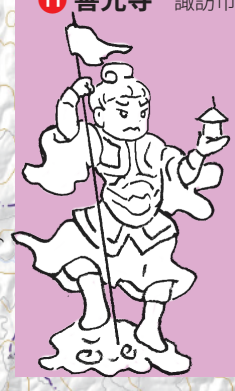
下社神宮寺本坊の表門が移築されているほか、上社如法院から徳川家位牌を伝えています。期間中、珍しい立像の五智如来等を蔵する光明堂の特別開扉がおこなわれます（日程はHPなどご確認ください）。周辺は美しい古村で、散策にもってこいです。



P 10 朱

⑪ 善光寺　諏訪市湖南4890イ

善光寺如来が飯田の座光寺から現在の長野市に遷る途中、７年間ここに留まったとの伝承をもつ「諏訪善光寺」です。上社本地普賢菩薩の脇侍だったという毘沙門天と不動明王、「下り仁王門」の仁王像を伝えています。いずれも等身大の堂々たる中世仏像です。



P 10 朱

⑫ 法華寺　諏訪市中洲神宮寺856

上社神宮寺の旧地に現存する唯一の寺院です。明治初年に廃寺になりましたが、しばらくして復興されました。
釈迦堂由来の三尊像は鎌倉の銘を持つ県宝でしたが、平成11年7月焼失。
しかし観音堂由来と伝わる観音像が、今回の調査で再確認されました。



P 20 朱

⑬ 惣持院　茅野市塚原2丁目8-2

下社由来と伝えられる薬師如来の懸仏が伝わっています。当寺が管理する白岩観音堂は、寺社建築で名高い立川流初代冨棟の出世作。意匠を凝らした美しいお堂は県宝指定を受けています。
その縁もあって、先代住職が集めた立川流彫刻のコレクションも必見です。



P 5 朱

⑭ 真徳寺　茅野市豊平下古田6629

神仏分離の際に上社薬師堂の移転の地になりましたが実現していません。「格院」という、上社如法院、下社観照寺と並ぶ格式の寺院でした。今回は一斉公開にあわせ通常非公開の阿弥陀如来坐像（阿弥陀堂本尊／茅野市指定文化財）を特別公開。ほかに、鎌倉初期の銘をもつ一木造の古仏も興味深い存在です。



P 20 朱

⑮ 長円寺　茅野市玉川穴山11373

「御柱街道」沿いに建ち、高島二代藩主忠恒が開いた穴山新田村を守るお寺です。上社薬師堂の旧本尊（鎌倉時代）を伝えています。
本来の脇侍かどうかわかりませんが、激しく朽損した２体の一木彫像も謎めいています。
境内の百仏百体観音石仏群も素晴らしい出来で、仏像好きは必見です。



P 40 朱

⑯ 虚空蔵堂　原村2320-1

御射山は別名「原山さま」といい、諏訪社の山宮ともいうべき存在。その本地仏・虚空蔵菩薩は、御射山祭で重視されていました。上社から原村の御射山社へと向かう神輿は多くの小社に立ち寄りますが、村の小仏堂に今も立ち寄って祝詞を上げ、神仏習合の遺風を伝えます。虚空蔵菩薩像、特別公開。



P 12

⑰ 高榮寺　富士見町立沢120

高原の村にあって、古き時代の趣を残す美しいお寺です。上社神宮寺、蓮池院由来と伝える仏像を複数受け継いでいます。端正な聖観音、保存の良い地蔵菩薩など。興教大師、弘法大師の両大師像は、江戸末期、近代の影響が入り始めた像様が注目されます。



P 20 朱

⑱ 長泉寺　富士見町落合瀬沢新田12098

諏訪と甲斐の境界近く、合戦の伝説を残す古村、瀬沢の里に位置します。下記、同じ富士見町の法隆寺とともに、上社如法院の末寺でした。縁あって、現在、長泉寺の住職が法隆寺を兼務しています。

P 30 朱

⑲ 法隆寺（富士見町乙事区役所＝乙事5187）

如法院の末寺だったため、同寺から多くの仏像等を引き継ぎました。寺としては観音堂を残すのみですが、大日如来、釈迦如来、不動明王等の尊像は、隣の乙事公民館で大切に守られています。拝観は公民館にて、御朱印は長泉寺でいただけます。

P 30

記号について：P 00＝駐車場（台数）　朱＝御朱印がいただけます。

※地理院地図をもとに作成。　※公開場所によって休業日や公開時間が異なります。最新情報をホームページでご確認ください→［検索］諏訪神仏プロジェクト